

過去５年間の教員表彰受賞者及び各取組内容一覧

年度	氏 名	校 種	校 名	職 名	主 な 内 容
R 3	伊 東 希 希	小	東小倉	教諭	平成２９年度版「学習指導要領の改善に係る検討に必要な専門的作業協力者」で得た知識を生かし、校内の教科指導及びカリキュラム研究の要として活躍している。 本校に赴任した平成３０年度には、川崎市教育委員会の研究推進校として国語の発表を、令和１・２年度には、研究推進校として道德教育の発表を行った際のものであった。なお、令和２年度には文書発表にとどまらず、道德教育全国大会の発表者としても予定されていた（新型コロナウイルス感染症の影響で書面開催となった）支援を受けている。
	中嶋 浩二	高	幸	総括教諭	昨年度より学習部が新しい分掌としてスタート。各種校内委員会の業務を引き継ぐとともに、大学新制度入試に向けたeポートフォリオや生徒の基礎学力の向上に向けた新たな取組などを主任として推進している。また、普通科の「素探究（総合的な探究の時間）」やビジネス教養科の「課題研究」での探究活動における基礎力を身に付けさせるため、学校設定教科「リサーチ基礎」を設置し、令和３・４年度の研究推進校として、研究を進めている。学校設定教科は、教科目標を立てなければならぬなど、0からの立ち上げになるのでたいへんな努力を要するが、実現させることができた。また、外部団体「モチラボ」との窓口として生徒の探究活動を深めるべく、講演、指導、講評の機会を設けるとともに、教員が指導スキルを身に付けられるような工夫を取り入れている。 地域と歩む学校づくりを推進するため、「素探究」では、幸区役所と連携して地域の課題解決に向けて高校生目の線で解決案を発信するという取組を実践し、成果を上げる。地域広報誌等に掲載されたり、生徒の提案をまとめた冊子を福田市長、幸区長に贈呈するなど、地域と連携し、取組の目的を現実させている。
	信岡 真弓	特	田島	総括教諭	知的教育部門と肢体教育部門の2つの教育課程を有する田島支援学校であるが、肢体教育部門は経験の少ない教育部門である。その上、近年においては、医療的ケアを必要とする児童生徒の入学が連続しその人数も増え、必要な医療的ケアの種類も増えている。そうした児童生徒の学校生活を充実したものにするためには、日々の指導内容の改善も必要であるが、医療的ケアを安全に実施するマニュアルが欠かれない。マニュアルを作成するためには、児童生徒の状態はもとより、医療行為を実施する看護師や教員、安全を確認する養護教諭の理解、保護者の意向も組み入れながら検討する必要がある。田島支援学校は事例が少なく、作成は困難なものであったが、当該教諭の県立校での経験、子どもの生活を豊かにしようとする愛情、保護者に寄り添う気持ちがあらわれ、主治医、指導医、教育委員会事務局の助言を受けながら、粘り強く、一入ひとりと、あるいは様々な医療行為のマニュアルを作成してきた。人工呼吸器の使用が必要となる児童の保護者の意向にも真摯に取り組む進めている。
R 2	黒川 邦子	中	渡田	総括教諭	学校経営の視点を常に持ちながら、常に生徒に寄り添い、生徒一人一人の成長のために積極的に関わるとともに、学校職員全体の指針となっており、経験の浅い教員に対しては、アドバイスを与えるだけでなく、良き相談相手となることで、若手教員の育成にも尽力している。 また、学校教育目標の具現化に向けて、学習指導上の課題解決においてはリーダーシップを発揮し、校内研究の推進、学習会の企画・運営、学習引きの作成など、学習指導及び学習評価の方向性を学校全体に浸透させることで、「わかる授業」、「基礎基本の定着」だけでなく、全校生徒の学習向上のため、常に生徒の実態を的確に把握して最大限の効果が出るよう工夫されている。 地域から講師を招いて体験講座を行う「ワークショップ渡田」では、職員間及び地域との連携を密に図り、企画の立ち上げから運営まで中心となって取り組むなど、地域に根差した学校づくりに多大な貢献をしている。
	小嶋 智加	小	中野島	教諭	思春期の難しい課題を抱えた児童、登校渋りや不登校などの困難を抱える児童に対して、児童の話をよく聞き児童理解を深め、児童の不安を取り除く等の心のケアに努めている。 また、保護者との連携を様々な工夫をしながら密に図り、問題の改善に向けて工夫した取組を実施している。 さらに、児童支援コーディネーターや教務主任、用務員等、様々な人と児童との関わりを大切にし、教職員みんなで児童を見守る体制を築き上げるとともに、きめ細かい支援が配速、声かけなどによって、児童がクラスに溶け込むよう工夫している。 児童指導の校内における研修では、指導・支援の手立てを工夫し、指導による児童の姿、教育的効果を分析する取組を示しており、他の教員に大変参考になるものである。 実践力、リーダーシップ等、本教員の取組は、波及効果がある。
R 1	住吉 幸代	中	有馬	総括教諭	生徒一人一人の気持ちに寄り添った指導法は、校内生徒指導体制の推進・改善の礎となり、学校運営に貢献している。 昨年度から生徒指導担当として、学校全体の生徒指導を司り、同時に宮前地区学校警察連絡協議会の事務局としてもその職責を果たす中、川崎市中学校生徒指導部会の常任委員としても活躍し、その取組姿勢は、経験の浅い教員の目標となり、ミドルリーダーの手法となっている。 また、地域や関係諸機関の催しや諸会議に積極的に参加することにより、自治会役員、民生委員、保護司、保護者等との関係を構築し、学校と地域をつなぐパイプの役割を果たしている。
	神原 洋介	小	木月	教諭	木月小学校は、「キャリア在り方生き方教育」が全的に実践される以前より、その研究推進校として、地域との関わりにより、児童の力をつける明確な方向性を示し、研究を推進しています。 研究主任として、実践を重ね、平成２９年度に総合教育センターの長期研究員を務め、今後の「キャリア在り方生き方教育」の方向性を提案することに尽力し、社会に生きている力の育成や将来の実生活につなげるには、教師が「人との関わり・学びのつながり」を意識した授業改善を行うことが大切である等、研究を通して全市に発表し、「キャリア在り方生き方教育」の授業実践例を数多く市内各学校へ提案し、全体的な広がりにも大きく貢献しています。
H30	森久 陽子		渡田	総括教諭（養護教諭）	縦密に計画を立て、生徒一人ひとりにきめ細やかに接し生徒が利用しやすい保健室経営を行っています。 学校保健会養護部会の部会長を長年務め、市内各学校と学校保健会や研究会などのパイプ役も担い、市内の健康教育の発展向上のために力を尽くしています。 前任者研修の講師や地区研究会等を通じ他校の養護教諭へのアドバイスを的確に行い、後進の育成にも力を注ぎ、本市の養護教諭の資力・能力の向上にも貢献しています。
	井上 教夫	中	野川	総括教諭	「かわさき共生＊共育プログラム」の作成委員として実践開始当初から関わり、毎年講師を務めるなど、先進的に実践し、同プログラムの実践事例の提示などを行い、市内全校への広がりに大きく貢献しています。 また、在籍した学校では、様々な課題を抱えた生徒に対して、親身になって寄り添い、決してあきらめることなく粘り強く関わり、生徒の精神面を支えています。 こうした取組を行う姿勢は、校内の若手教職員に「人との関わり」を伝えるだけでなく、「人との関わりを大切にしたい教育」の実践など、教職員の育成に大きく貢献しています。さらに、関係諸機関とのパイプ役として地域力の活性化にも力を尽くしています。
	慶野 久美子		南生田	総括教諭	特別支援学級の主任、支援教育コーディネーター主任、生徒指導部主任を兼務し、学校全体を視野に入れた校内の特別支援教育、人権尊重教育に基づいた研修や取組の中心を担っています。 「特別支援教育」や「支援教育」の具体的な実践として、過ごしやすい学級づくり、わかりやすい授業づくりに取り組み、また、常に生徒や教職員を尊重する態度は、教職員の模範となっています。 さらに、中学校教育研究会特別支援教育部会では、常任委員を務め、特別支援学級等新担任者研修において、特別支援学級経験の講師として、全市の特別支援教育にも大きく貢献しています。
H29	下田 理子	小	碑原	教諭	着任時より、病弱クラスの担任として、聖マリナン内科大病院内の院内学級を運営し、小学部の担任をほぼ一人で務めてきた。院内に設けられた教室の環境整備、児童に有効な教材の選定を積み重ね、充実させることにも、児童の気持ちに寄り添い、保護者や病院関係者の意見を取り入れながら個別の学習指導計画を作成し、それに基き学習支援を行っている。聖マリナン内科大病院の院長先生をはじめ、主なスタッフも参加する「院内学級運営会議」では、工夫を凝らして指導や児童の活動する姿をプレゼンテーションし、病院関係者の理解を深め、諸課題にかかわる意見を交換し、その後の運営に確実に生かしてきた。校内の教職員にも院内の様子を伝え、専門的な知識を踏まえて研修も行ってあり、職場での信頼も厚い。
	伊藤 和江		大谷戸	総括教諭	大谷戸小学校は、児童数が1,200名を越す川崎一の大規模校である。当教諭は大谷戸小に異動して2年間、前任校での経験を含めて4年間、児童支援コーディネーターを務めている。支援が必要な児童に対し常に密にかかわり、支援を続けてきた。教職員が指導の際には、共通理解が図られるよう作成している「大谷戸スタンダード」を全教職員の共通理解のもと策定し、学校全体で足並みをそろえた児童指導ができるよう努めている。さらに、校内での調整のみならず、支援の必要な児童の状況に合わせて、保護者、民生委員、児童委員、児童相談所、警察、PTA等と密に連携を図りながら、適切な支援を行っている。また、全校児童が安心して学校生活が送れるよう、毎朝の児童の出欠状況を把握して、教職員や教育サポーター、ボランティア等の配置計画を、管理職と相談の上迅速に作成し、学校運営が円滑に行われるよう貢献している。
	津藤 信吾	中	南大師	教諭	第2学年の主任として、生徒の問題行動に対しては、リーダーシップを発揮して迅速に対応し、健全育成に尽力している。南大師中学校は「キャリア在り方生き方教育」の研究推進校として2年目を迎えるが、研究主任として研究を深め、自校の実践を全市に発信している。研究については、責任をもつてとりまとめ、適切な指示を出しながら着実に進んでおり、他の教職員からの信頼も厚い。特に、生徒が思いを持って活動するためのキャリアカードの導入・活用や、生徒が主体的に活動できる機会を増やすキャリア委員会発足など、教育活動全体に広がるユニークな取組により、生徒の意欲向上を図っている。
	鈴木 正博		柿生	教諭	児童生徒の意欲向上に関して、学習指導要領の趣旨や内容を熟知している。今年度は、神奈川県中学校社会科研究会川崎大会の研究部長として、基調提案を行う。また、文部科学省の教育課程中央説明会に本市の教員代表として選ばれている。研究実績としては、市の『中学校学習指導事例集/社会科』の委員として執筆・編集を行った。また、平成27年度川崎市総合教育センター長期研究員として、1年間の研究成果を発表し、研究紀要をまとめた。校内では、学校運営の改善に努め、2学年主任として生徒一人ひとりの実態に合わせて、自らの良さや気づきを得られる指導・支援を行えるよう工夫している。また、高いコミュニケーション能力を発揮し、校内の関係者等との連携を図り、学校運営に貢献している。学年主任、生徒・健康指導部会メンバーとして、的確な情報提供を行い、他学年はもとより、管理職、生徒指導担当、スクールカウンセラーともコミュニケーションがとれているので、迅速で的確な対応ができる。
	中野 理佳	特支	豊	総括教諭	聴覚障害児にとって音楽という教科は、苦手な教科である。当教諭は、平成20年4月に豊学校に着任以来、音楽の担当として、小学部から高等部までの幅広い年齢の聴覚に障害のある児童生徒に音楽の楽しさや素晴らしさを教えてきた。音の聞き取りにくい児童生徒に、リズムや音の高低を伝えるため、音符をわかりやすく工夫したり、ハンドサインで指導したりするなど努力を重ねた。また、聞こえにくい児童生徒にも振動で伝える太鼓を使った演奏を取り組んだり、中高生からは本人の興味に合わせて、ギター演奏やドラムの演奏にも挑戦させるなど、音楽を演奏する楽しさを児童生徒に伝えることに努めた。その中で、豊学校の児童生徒は、音楽が大好きで、進んで楽器演奏に取り組んでおり、毎年行われる地域教育会議主催の地域音楽祭において、和太鼓の演奏を披露し高く評価されている。